



3Gテレマティクス専門委員会
H18年度活動報告

平成19年5月11日

専門委員長 中村 康久

3Gテレマティクス専門委員会 構成

3Gテレマティクス専門委員会

専門委員長: 中村 康久 (NTTドコモ)

調査検討WG

主査: 吉田 青史 (松下電器)
副主査: 田村 俊之 (KDDI)

緊急通報検討WG

主査: 中村 康久 (NTTドコモ)

アンテナ技研、伊藤忠テクノサイエンス、インテル、NTTソフトウェア、NTTドコモ、沖電気工業、カルソニックカンセイ、KDDI、ケンウッド、コムーチュア、住友電気工業、ゼンリン、総務省、デンソー、電波産業会、東芝、ドーシス、トヨタ自動車、中日本高速道路、日本電気、日本無線、野村総合研究所、パーク24、パイオニア、日立製作所、富士通テン、フリースケール・セミコンダクタ・ジャパン、本田技術研究所、マスプロ電工、松下電器産業、三菱重工業、三菱商事、三菱電機、矢崎総業、ヨコオ、横浜国立大学

発表内容

1. 調査検討WGについて
2. 緊急通報検討WGについて
3. APEC TEL Telematics Workshop 出席報告
4. 歩行者の安心・安全への取組みについて
5. まとめ

1. 調査検討WGについて

1. セミナーの実施

I. 第1回専門委員会セミナー(2006年7月10日)

a. 「緊急通報サービスの動向について」

講師：株式会社日本緊急通報サービス 常務取締役 落合秀広氏

b. 「通信を利用したITSによる安全、快適なクルマの開発」

講師：日産自動車株式会社 IT-ITS開発部 課長 藤倉利之氏

II. 第2回専門委員会セミナー(2006年12月8日)

a. 「ケータイ向けナビゲーションサービスの最新動向について」

講師：株式会社ナビタイムジャパン 代表取締役社長 大西啓介氏

b. 「第34回APECテレマティクスワークショップ参加報告」

講師：ITS情報通信システム推進会議3Gテレマティクス専門委員会
委員長 中村康久氏

2. 調査報告書の作成

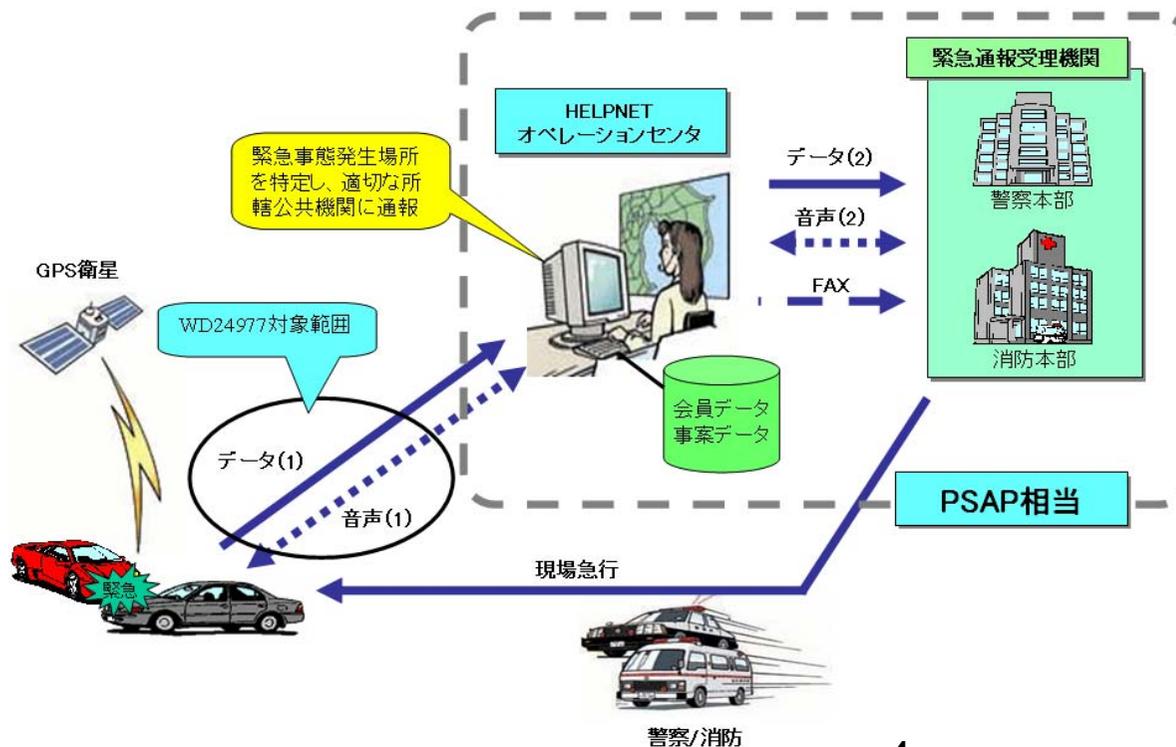
3Gテレマティクス関連の最新の技術・サービス動向や商品動向について、例年同様詳細な報告書を作成した。(本文265ページ)

2. 緊急通報検討WGについて

eCallについて

eCallとは車両衝突等の緊急時に、緊急通報番号を呼び出して通話を行い、PSAPへMSDを通知する緊急サービスのことである。

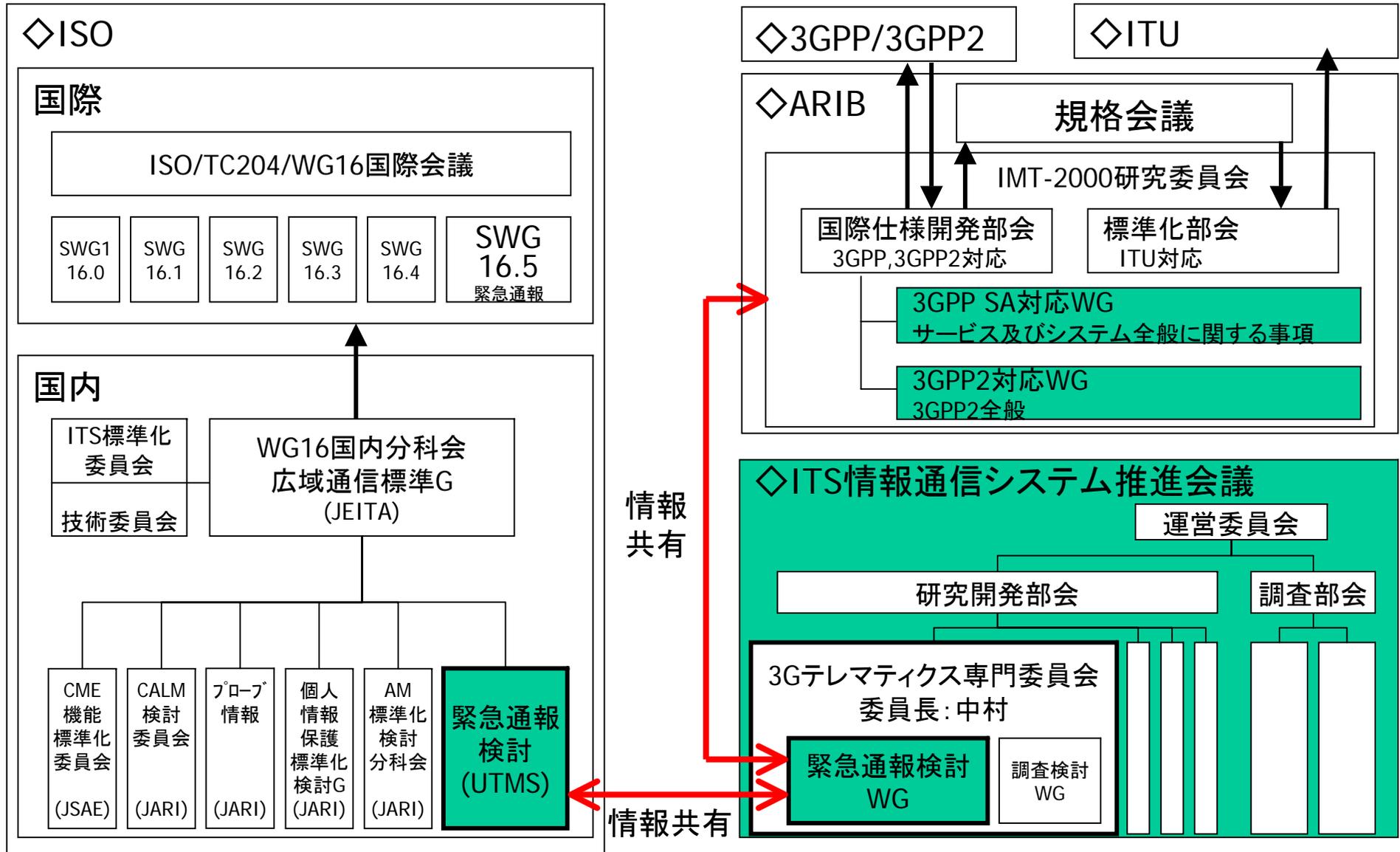
日本の緊急通報システム(HELPNETの例)



PSAP
(Public Safety
Answering Point:
緊急通報センター)

MSD
(Minimum Set of Data:
最小事故データ集合)

2. 緊急通報検討WG：位置づけ



2. 緊急通報検討WG：eCallに関する標準化の動向

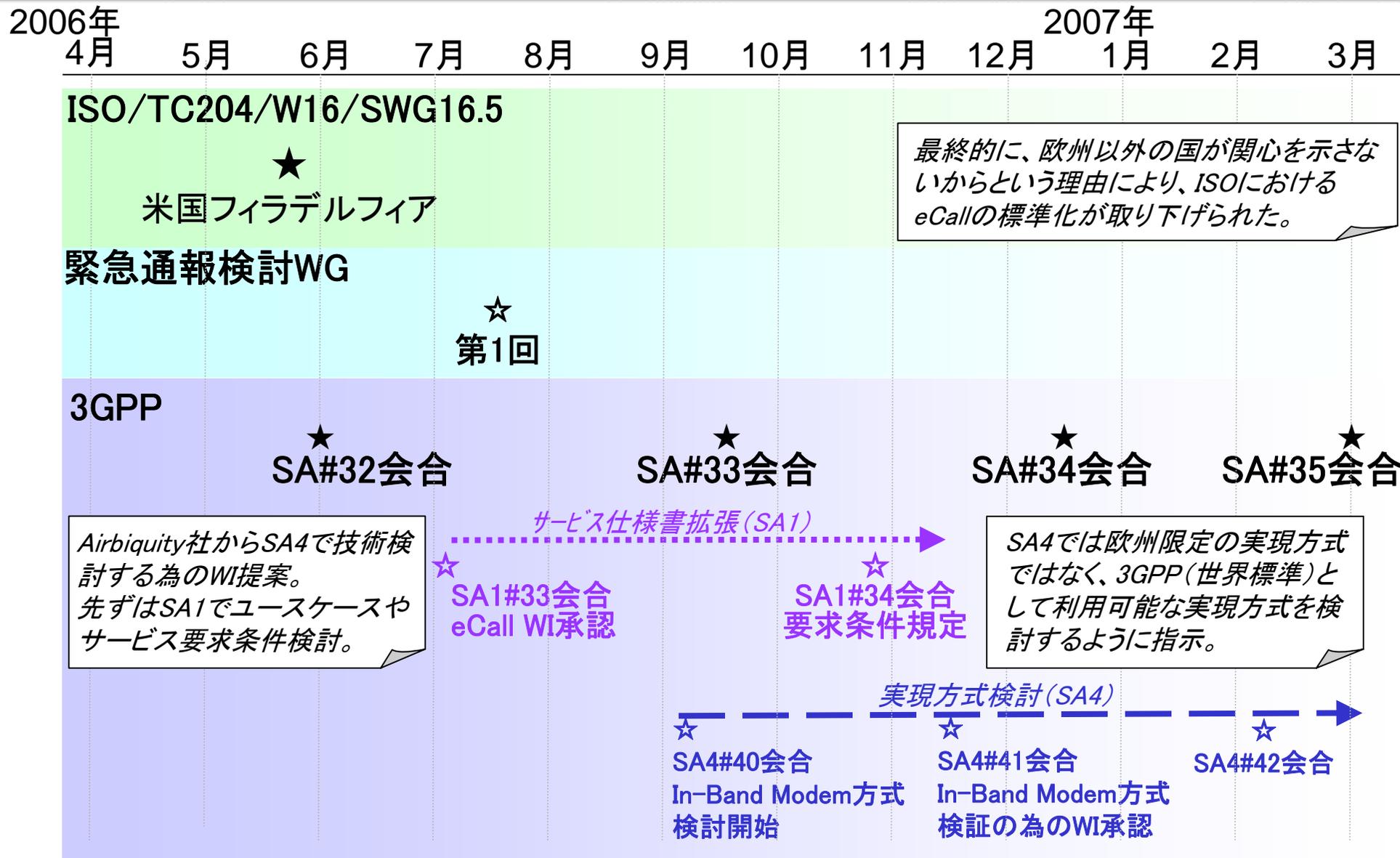
□ISO/TC204/WG16/WG16.5の動向

- ・CD24977(eCall)のCD投票が否決されたため、欧州内の議論が落ち着くまで6～9ヶ月サスペンドすることになった。
- ・欧州以外の国が関心を示さないからという理由により、ISOにおけるe-Callの標準化が取り下げられた。

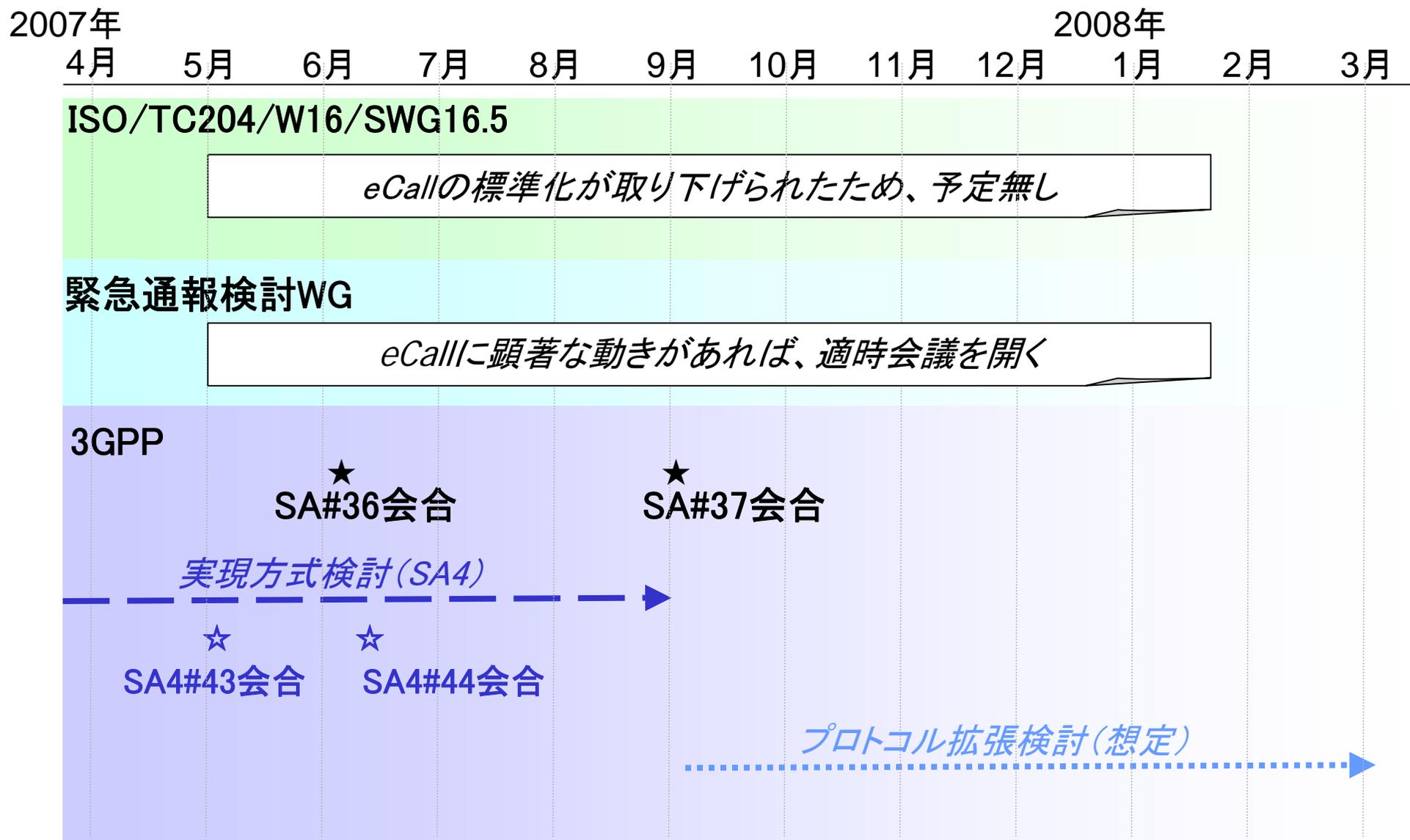
□3GPPに関連するeCall検討について

- ・SA1ではユースケースやサービス要求条件の検討を求められたため、要求条件を規定して、サービス仕様書を拡張した。
- ・SA1からSA4へIn-Band Modem方式の検討が依頼された。
- ・SA4では欧州限定の実現方式ではなく、3GPP(世界標準)として利用可能な実現方式を検討することを条件に、実現方式を検討開始することになった。2007年の9月までに実現方式検討を完了させる予定となっている。

2. 緊急通報検討WG：関連する活動経緯



2. 緊急通報検討WG：今後のeCall検討計画



3. APEC TEL Telematics Workshop : 出席報告

【日時】 2006年10月24日 9:30~12:00

【場所】 ニュージーランド オークランド市
(スカイシティコンベンションセンタで開催)

【出席者数】約40名

※主に海外のテレマティクス団体、カーナビ会社、キャリアが出席

【日本からの講演】

講演者:

3Gテレマティクス専門委員長 中村康久

講演内容:

日本におけるテレマティクスや日本の移動通信サービスの最新状況について講演した。



3. APEC TEL Telematics Workshop : 各国の講演内容①

【大韓民国(韓国)】

- ・キャリアとカーメーカーが中心となり、ケータイ向け／自動車向けに2003年頃から交通情報とナビゲーションを中心にサービスを展開。
- ・アフターマーケット市場の方が大きいですが、OEMのテレマティクス市場も急成長中で、ハンズフリーや緊急通報サービス、メールサービスなどを開始した。

【オーストラリア】

- ・テレマティクスの歴史や各国との協力状況について説明。
- ・市場開拓中というステータスである。



3. APEC TEL Telematics Workshop : 各国の講演内容②

【中華人民共和国(中国)】

- ・全土でテレマティクスサービスを提供している会社は無く、各都市限定で故障時のレスキューサービスなどが中心。
- ・07年～09年にかけて、全土をカバーするデジタルマップが完成し、GPSを使ったサービスの発展が見込まれる。
- ・都市部ではリアルタイム交通情報が求められおり、プラットフォーム整備が急務。

【アメリカ】

- ・テレマティクスの標準化動向の最新状況を紹介。
- ・各国で行われたITSに関する会合の様子を情報共有。



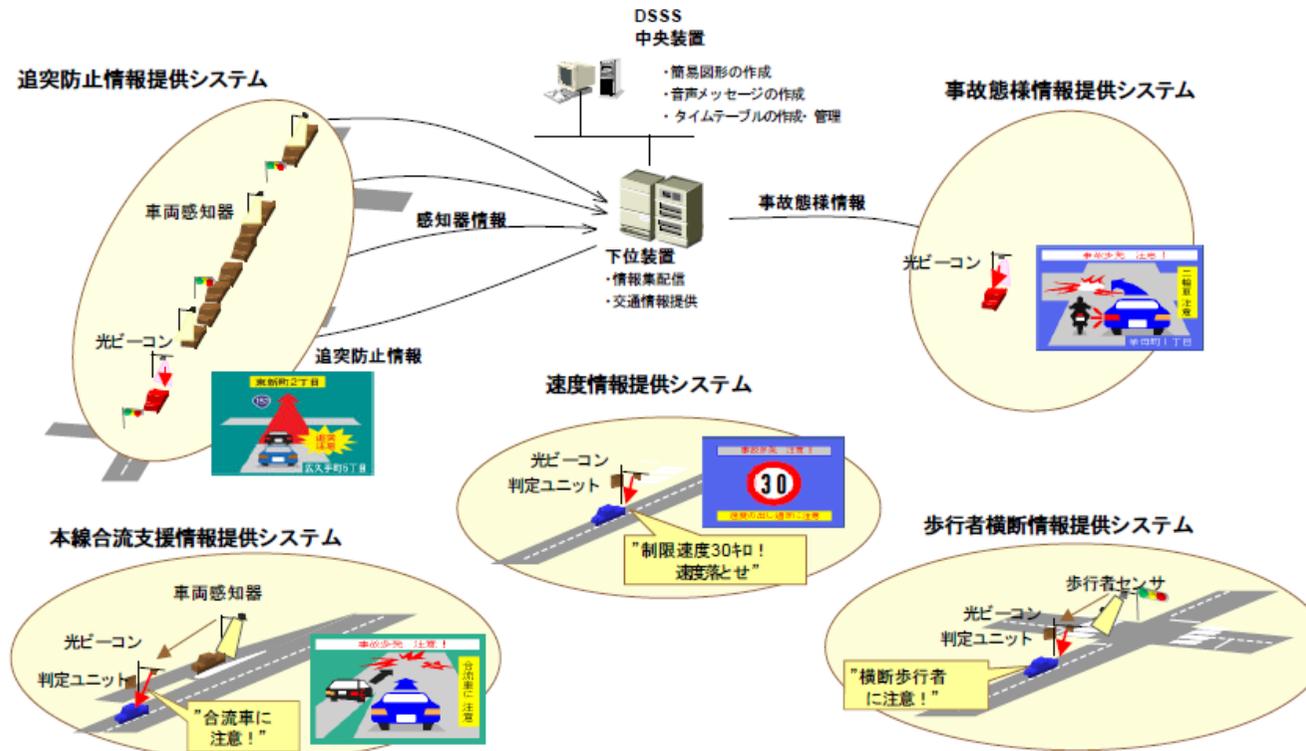
【台湾】

- ・ケータイベースで交通情報やマップ配信サービスを提供。
- ・カーメーカはハンズフリーやオペレータサービスに加え、盗難車追跡サービス等も提供している。

4. 歩行者の安心・安全への取り組み

4.1 DSSSの取り組み

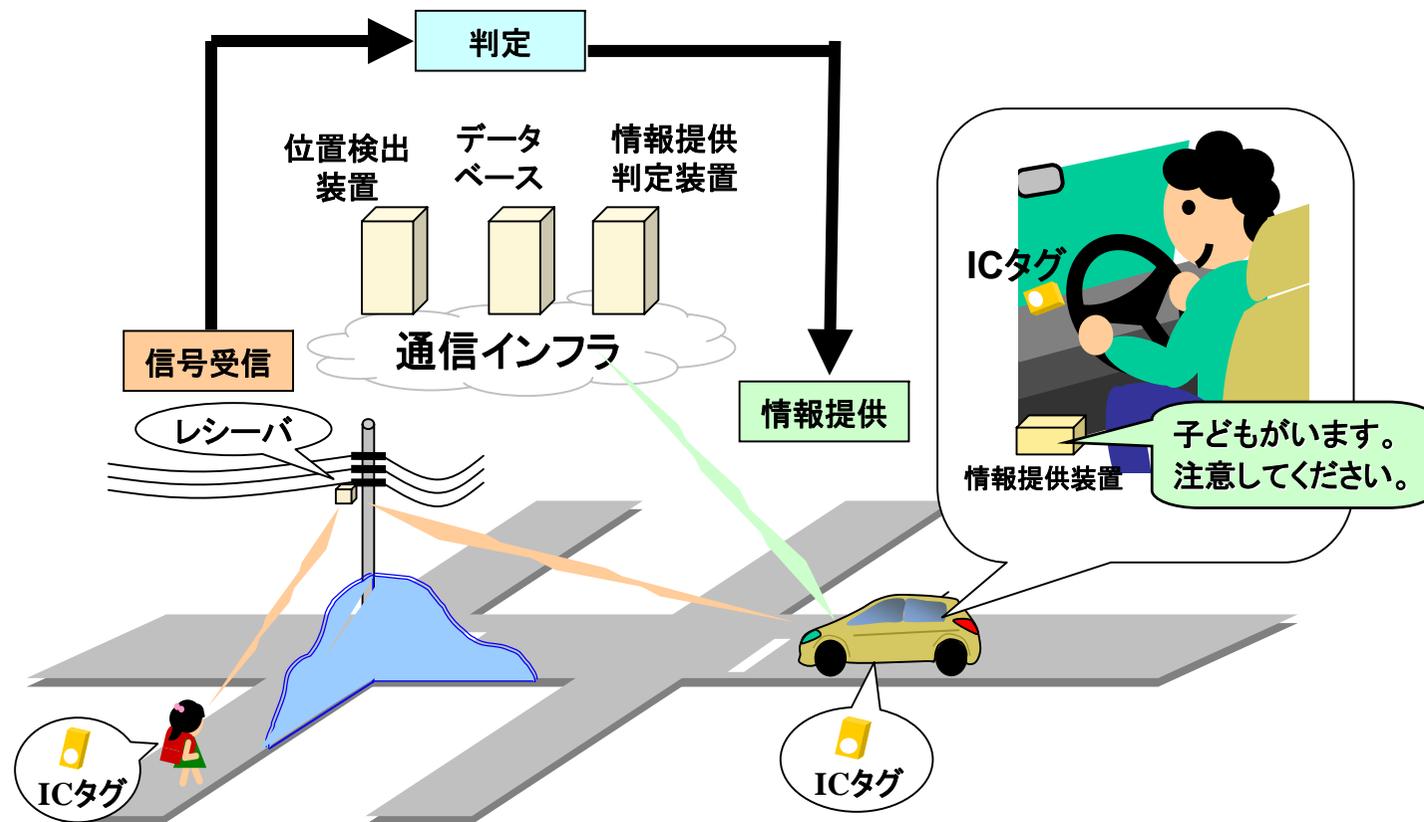
安全運転支援システムは、運転者に対し、周辺の交通安全情報を3メディア対応型VICS車載機のディスプレイへ図形又は音声情報により提供することで、危険要因に対する注意を促し、安全運転意識の向上を図るとともに、交通事故を防止するシステム。



4. 歩行者の安心・安全への取り組み

4.2 アイセーフティー 子ども存在情報 ドライバー通知サービス

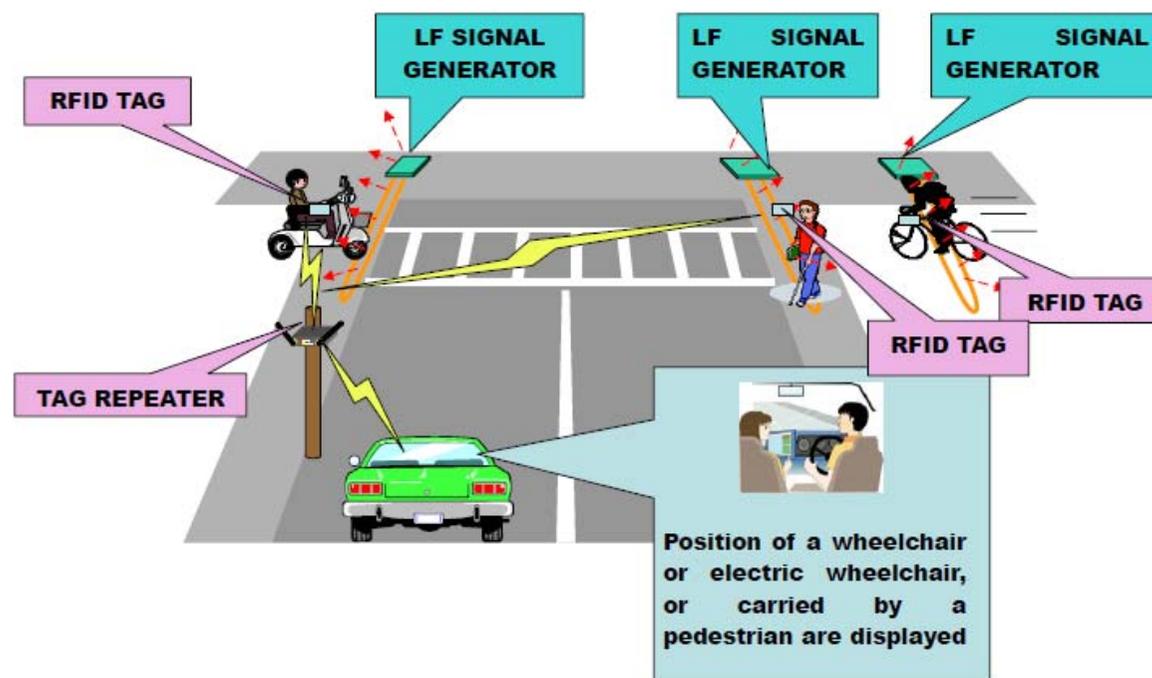
近くに子どもがいるという情報をドライバーに提供し、安全運転を支援するシステム。



4. 歩行者の安心・安全への取り組み

4.3 RFIDを利用した安全運転支援システム

歩行者がRFIDタグを保持する。タグは交差点等に埋め込まれたLF信号発信機から位置情報を取得し、アクティブに位置情報とタグの情報をUHF帯のRF信号でブロードキャストするシステム。上記RF信号を受信した車載器は、近くに存在する歩行者の情報と、位置情報を取得することができ、運転者に対して注意喚起を行い、交差点での歩行者交通事故を防止することができる。



4. 歩行者の安心・安全への取り組み

4.4 GPSケータイを用いた携帯電話協調ITSシステムの開発及び検証実験開始

3G携帯電話システムのGPS測位による位置情報通知機能を利用し、歩行者の概かな位置情報をドライバーに通知し、「見えにくい場所にいる歩行者」に対する交通事故の低減を目指すシステムを開発する。

●機能

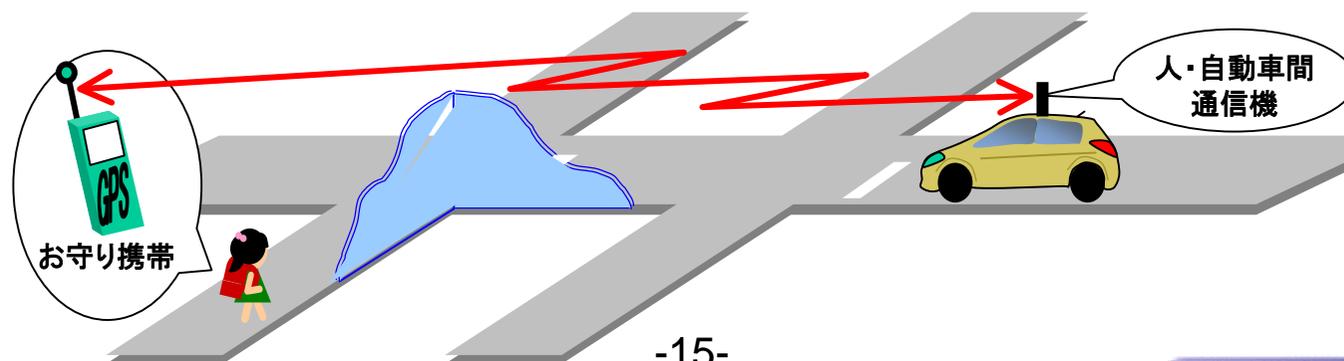
歩行者の存在を検出する。

●警告通知

・音とモニター内のアイコンで運転者に報知

●回避操作

・必要な場合、回避操作を実施。



5. まとめ

- 3Gのみならず、4Gも含めた最新移動通信技術やカーメーカの提供する最新のテレマティクスサービスの進化等の技術調査を実施し、報告書として取りまとめた。
- ワイヤレス通信の発展のベースとなる、IMS(IP Multimedia Subsystem)やSIP等、IP系技術についてITSへの適用を検討する。
- 歩行者の安心・安全へのITSの取り組みについて今後も継続して調査、研究を行なう。
- 今後も引き続き、国内外の最新テレマティクスサービスの調査・検討を進める。